



## ➡ 6月16日「歴史学の最先端」都立高校生のための先端研究フォーラム

6月16日、東京都立大学主催の都立高校生のための先端研究フォーラム「歴史学の最先端」が開催され、日比谷高校からも多くの生徒が参加しました。フォーラムは Zoom を利用したリアルタイム配信で実施されました。

### 【講師：谷口央教授からのメッセージ】

世の中に広く知れ渡っている事実を扱うと考えられている歴史学ですが、実際は歴史の教科書は書き換えられ続けています。それは歴史学の研究により歴史認識の修整が続いているからです。一方、世の中に歴史の無いものはほぼないこともあり、歴史学は他の学問分野と親和性を持ち、近年は他分野と融合する形での新たな成果も見せています。このように現在の歴史学の成果には、古くからの歴史学の手法に基づく、歴史認識の修整を極めた研究成果（ナンバーワン）と、他分野との融合等による新視点の研究成果（オンリーワン）があります。ここでは、実際に最近教科書の記述内容に変更があった豊臣秀吉の政策と、融合分野の一例として地震（防災）をテーマに歴史学の二つの最先端を見ていくこととします。

### 【参加した生徒の感想】

- ・高校時代は様々なことを体験しておきたいと思った。歴史学を考える時は、当時の人々の気持ち、考えをもつことが重要だと学んだ。歴史学は多くの分野から解析することが可能であるから、様々な視点から考える必要があると思った。理系分野から歴史学を解析してみたい。
- ・今学んでいることは将来役に立つんだと実感することができた。文系の方が得意だから理系の教科をあまり勉強しないというようなことをせずに、どちらもよく取り組もうと思った。
- ・歴史は理系の学問と違って答えが100%に定まらない。100%に限りなく近づけるためには、その情報が本当に正しいかを見極める力が必要になる。興味深いと思ったのは他の学問と関連させることで新たな発見を得られること。谷口先生は地震に注目されていたが、その統計を歴史と関連付けて研究されているのが面白かった。
- ・進路を考えるにあたっては、学部、学科だけで判断することなく、所属している教授など、実際に進学した際の環境を考える必要がある。他分野との融合は、史学だけでなく様々な分野で新たな知見を得るために促進していくべきである。
- ・高校2年の夏休み前である今、自らの進路に関して行動を始めなければならず悩んでいたところだったのでとても良い経験となった。谷口先生のお話は私にとって非常に興味を引かれる内容であった。私は歴史学に興味があり、その方面の進路も考えているのだが、正直具体的に何をやるかや、それに対して4年間続ける程興味を持てるかなどの不安があった。しかし、今回のお話は現実での研究の動きを直に感じられ、またそれを聞いてワクワクしている自分に気付いた。改めて私は歴史が好きなのだと思実感し、少し道が開けた気がする。
- ・私はその時代に生きた人々の視点で捉えることが大切だという言葉が印象に残っている。バイアスがかかってしまっていると真実を見落とすことに直結しかねない。また、日本史以外の分野との連携があることも興味深かった。教養を礎としていることで、資料から読み取れることも違ってくるのだと思う。私も高校生の時から様々な分野を意欲的に学んでいきたい。

## 6月17日「グローバルリーダー育成研修、OBOGとの交流会」

6月17日木曜日の放課後、G10研修のOBOGの方々3名に、現在研修に参加している2年生の代表者4名がお話を伺う機会があった。

お話の中では、研修を経験した先輩方から、実際の活動において得た体験や知見を伺った。特に、今年度はCOVID-19の影響により研修の内容が例年と異なっており、例年の研修の内容を伺う機会はとても貴重であった。また、今年度の研修は、現在、テーマを選んでこれからの活動の方針を決める段階にあるため、テーマを選ぶ上で大切な観点につ



いても伺った。例えば、テーマを選ぶ切り口として大きく分類すると、世界、特に海外に着目するか、日本に着目するかという2つの視点がある。先輩方とともに、それぞれの視点のメリットとデメリットにはどんなものがあるか、先輩方の経験談をもとに議論することができた。ほかにも、テーマを一度決めてうまくいかない場合にも、今までの労力を惜しまずに新しいテーマに移ることの大切さや、活動をグループ内で分担する効果的な方法など、先輩方が経験を通して得た貴重な助言を多くいただいた。

今回学んだ知見を活かしてこれからの活動に取り組み、最終的に高校生として説得力のある提言をまとめていきたい。

## 6月22日「ケンブリッジ大学、現役学生とのオンラインセッション」

日比谷高校 72期で現在ケンブリッジ大学工学部に在籍する先輩のご協力のもと、7名のケンブリッジ大学生とオンラインセッションを行った。オンラインセッションは、G10メンバーによる食料問題に関するプレゼンテーションの後、ケンブリッジ大生からフィードバック、大学生活の紹介、そして質疑応答という流れで行われた。フィードバックでは、プレゼンの内容について、スライドの中身やグラフの使い方の点を評価していただいた。ケンブリッジ大学での学生生活のお話は、長



文のエッセイ課題や高度なディスカッションを授業で行うといったハードな反面、クラブや society(サークル活動のようなもの)への参加、自由時間を楽しむなど、とても充実した生活であると思った。大学生からのプレゼンの後には、日比谷生から、ケンブリッジ大学志望理由、他国の大学との違い、高校時代の過ごし方などの質問が寄せられ、どの質問にも丁寧に答えていただいた。印象的だったのは、興味のないことよりも、自分の興味のある分野についてとことん掘り下げるべきだ、という言葉だ。一見、視野を狭めてしまうように感じる言葉であるが、興味のあることに関しては自分が世界をリードしていくのだという強い意志を感じ、その姿勢を見習いたいと思った。またケンブリッジ大生が繰り返し述べていた diversity という言葉も心に残った。多様なバックグラウンドを持った、自分と異なる考え方の人との交流が、彼らの発想を豊かにし、その環境が整ったケンブリッジ大学をととても魅力的に感じた。自分自身への自信とともに、他者への敬意を忘れないケンブリッジ大生のアドバイスは、食料問題の提

言を考えるため以外にも、今後の学び方、生き方の参考になるものであった。グローバルな視点でフィードバックをいただけたこの機会を無駄にすることなく、より良い提言作成に向け活動を続けていきたい。

### 【参加した生徒の感想】

・ケンブリッジ大学の学生の皆さんが学生生活について話をしてくださった中で、皆さんの普段の学びにおいて、自分の考えをアウトプットする機会がとても多いのだと実感した。加えてただアウトプットして完結するのではなく、内容について他の人とディスカッションをすることで一連の流れとして確立されていることが分かった。例えば数千語のエッセイを書き、少人数でディスカッションする機会が毎週あると伺った。これはまさに今私たちがG10研修で取り組んでいる、チームで課題を発見して解決策を提言としてまとめる、という過程に通ずるものであると思う。ただ、今回の私たちのプレゼンテーションでは、グループのテーマも明確に定まっておらず、伝えたいことを伝えられたとは言えない。研修の中で練習を繰り返していきたい。

・プレゼンテーションに対して頂いたコメントで、データ（数字）が非常に大切だということを何人もの方がおっしゃっていたのが印象に残った。言語によるデリバリーが完璧でない中でも、やはりデータや話の筋が通っていれば、伝わるのではないかと思った。また、ケンブリッジ大学の紹介では、様々な授業の取り方があるのが興味深く、自分のやりたいことに専念できつつ、色々な学びがある、というのが魅力的で印象に残った。特に、数人のグループでの話し合いの場があったり毎週レポートを書いたり、自分の考えを深め言語化する機会が多く与えられているということが魅力的だと思った。

・ケンブリッジ大学の学生の方々がどのようなことに対しても必ず何か一言言っていたことが非常に印象的だった。私は一年生の頃にコミュニケーション英語の授業で、ハーバード大学には幸福についての授業があることを知ってから、ハーバード大学やケンブリッジ大学などに通っている学生の幸福に対する考え方に非常に興味を持つようになった。そこでこの機会を生かして、ケンブリッジの学生に「あなたの幸せとは何ですか」という質問をした。後になって思うと自分の言葉が足りず、かなり抽象的な質問になってしまい、かなり答えづらかっただろうと反省した。それにも関わらず彼女たちは必ず答えてくれた。「分からない、できない」という言葉はコミュニケーションを終了させ、何も得ることができない。私は彼女たちを見習い、難しい質問や話を受けたときに自分にできる最大限の努力によって意味のあるものを創り上げていきたいと考えた。

・英語を話す以前に、話せる内容を持っていないとダメなんだと痛感した。大学生の方のお話の中で、人には優劣はない、だから自信をもつことが大切という言葉が印象に残った。今まで周り自分と比べてばかりだったので、その概念が壊された。何かを発表するとき、どうしても自信を持てなかつたけれど、十人十色だと再認識させられたので、これからはもっと自信を持てるようになった気がする。大切なことに気付かせてもらった。

・まさか all English のセッションだとは思ってもいなかったのが驚いた。正直何を言っているか分からないところが多数あったが、生の英語に1時間半も触れられて、本当に良い経験だった。特に質疑応答の際にケンブリッジ生の実体験を踏まえた話が聞けたことが、何よりも役立つと思った。

・実際にイギリスの大学に通っている方々の話を生で聞けて良かった。大学生になったら自分の語学力を更に磨くために留学したいと思っていた気持ちがより強くなった。ケンブリッジ大学と聞くと今まで遠くて人生で話をする機会などあるのかと考えていたが、今回のセッションを通してとても身近な存在に感じる事ができた。

・このセッションで一番印象に残ったのは「高校時代に後悔したことは何か」という質問に対して、ケンブリッジの学生が”Try everythig” ” Be coufident” と答えたことだ。私は現在、自分のやることが正しいか不安になったり、何か新しいことに挑戦しようとしても、自信がなく不安になったり



する。しかし、幅広い視野を持つためには、自分の失敗を恐れず、様々な分野に足を踏み入れるべきだ。挑戦し、何か分からなくても、それで自信を無くすのはもったいない。「全てを理解しようとせず、周りに聞いて理解すればいい」という心持ちで臨めばいいとケンブリッジの学生の方は言っていた。また、学生の方は自分の専攻している分野に自信をもっていたし、それは様々なことに挑戦した結果、自分の一番興味のある分野に出会えたからだと思う。このセッションを契機に失敗を恐れず、様々なことに挑戦し、自信を持っていきたい。

